

# ハーモニー

第33号

発行：下田市役所企画財政課 編集協力：男女共同参画社会の実現を目指す市民懇話会  
電話：22-2212 FAX：22-3910 E-MAIL：kikaku@city.shimoda.shizuoka.jp

## chapter 1 市町連携地域実践活動推進セミナー開催

平成25年12月12日（木）、下田市民文化会館小ホールにおいて、下田市と静岡県共催による「男女共同参画市町連携地域実践活動推進セミナー」を開催し、下田市他市町から約60名近い方にご参加いただきました。この市町連携地域実践活動推進セミナーを下田市で開催するのは3回目となり、今回は『男女共同参画の視点を活かした防災対策』と題し、講師に静岡大学教育学部の池田恵子教授をお招きし、基調講演をしていただきました。また基調講演の後、『災害に強いまちづくりと男女共同参画』をテーマに、各団体の代表者の方を集め、パネルディスカッションを行いました。今回のハーモニーは、このセミナーの様子を特集します。

### ◎市町連携地域実践活動セミナースケジュール

◇開会：静岡県男女共同参画課 諸星雅和課長代理

◇第1部：基調講演（午後1時45分～午後3時5分）

『男女共同参画の視点を活かした防災対策』

講師：静岡大学教育学部 池田恵子教授

◇第2部：パネルディスカッション（午後3時15分～午後4時30分）

テーマ：『災害に強いまちづくりと男女共同参画』

パネリスト：静岡大学教育学部 池田恵子教授

下田市自主防災会連絡協議会 土屋磯雄会長

賀茂災害ボランティアコーディネートの会

井田一久理事長

男女共同参画社会の実現を目指す市民懇話会

伊澤英子代表

下田市女性の会 増田悦子会長

静岡県賀茂危機管理局 小川幸弘局長

下田市市民課防災係 佐々木豊仁主査

コーディネーター：静岡県男女共同参画課 諸星雅和課長代理

【参加団体】

下田市自主防災会連絡協議会、賀茂災害ボランティアコーディネートの会、下田市女性の会 他



～池田恵子教授プロフィール～

青年海外協力隊員、JICA技術協力専門家などとしてバングラデシュやネパールで環境保全や防災の事業に貧しい人々や女性の視点を組み込む活動に従事。2000年より静岡大学教育学部教員。東日本大震災女性支援ネットワークの研修担当として、被災地内外で救済や復興に男女共同参画の視点を取り入れるための研修に従事。平成25年6月に県が作成した「男女共同参画の視点からの防災手引書」を監修。



# 第1部 基調講演

## 1) 立場や性別による被災経験の違い

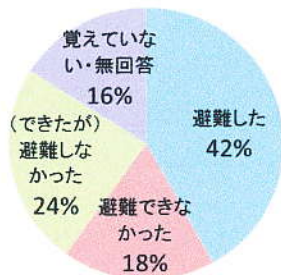
### ～東日本大震災の経験から～

東日本大震災では、高齢者(60歳以上)の方が、多く亡くなった。また、障害者の死亡率は健常者の2倍以上だった。そのような避難支援を必要だった人の実際の避難行動(グラフ1参照)や避難できなかった人、避難しなかった人の理由については以下のとおりだった。



基調講演の様子

#### 避難支援を必要だった人の 実際の避難行動(グラフ1)



#### 避難できなかった人の理由

- ・避難の判断に必要な情報が得られなかった(全体の34%)
- ・周囲の支援がなかった(全体の32%)

#### 避難しなかった人の理由

- ・設備や環境の問題から避難所では生活できないと思った(全体の34%)
- ・他の避難者も多く、避難所には居づらいと感じると思った(全体17%)

また、東日本大震災での避難所生活において、人々が直面した困難には、性別や立場別の違いもあった。その困難は「生活環境・安全面の困難」「家庭・社会生活面での困難」2つの側面から考えることができる。

#### 生活環境・安全面の困難

- ①生活環境(プライバシー・衛生)
  - ・仕切りや更衣室がない場合、プライバシーが確保できない
  - ・入浴できない  
(乳幼児や要介護者は特に大変)
  - ・避難所に居づらい避難者  
(障害者・高齢者などやその家族)がいた
- ②物資の不足と配布方法の問題
  - ・女性用品、育児用品、介護用品の不足
  - ・男性のみによる物資の配布
  - ・在宅避難者が物資を受け取れない
- ③安全の問題
  - ・ハラスメント、DV、性暴力の発生
  - ・日常にもまして声をあげにくい

#### 家庭・社会生活面の困難

- ①性別役割の顕在化
  - ・ライフラインがない中での家事や家族の世話
  - ・女性のための炊き出しの負担(無償労働)
  - ・避難所の責任者の大半は男性  
(過度な負担の集中)
- ②働くこと・収入を得ること
  - ・女性は先に解雇、失業率増加
  - ・保育、介護施設機能低下、交通手段喪失状況での職探し
  - ・世帯単位の資金/住居支援
- ③避難生活の運営・復興への参画
  - ・女性は議論に参加しにくい
  - ・発言権が低い

大きな災害時には誰でも大変な経験をするが、避難生活や復興の困難さは、性別・年齢、家族や地域におかれている立場によって違いがある。地域に暮らす多様な人々の「違い」に配慮した防災体制や支援など、きめ細やかな対処ができるよう備えておく必要がある。



## 2) 自主防災会での具体的な対策について

多様な人々への配慮の視点をもった具体的な対策は次のとおりである。地域でこれらのことを男女双方で話し合うことが重要である。

### 1. 生活環境(プライバシー・衛生・安全)

- 仕切り、女性専用ルーム(更衣室や授乳室)、男女別の物干し場
  - 子どもコーナー
  - 障害者、高齢者などとその家族優先スペース
- ※これらのスペースを避難所にするよう地域で協議して避難所運営マニュアルに反映させる。

### 2. 安心安全(治安・暴力など)

- 夜間照明  男女別トイレ、設置場所を工夫
  - 災害時の安心安全に関する啓発
  - 相談窓口情報の提供  防犯ブザー貸出
  - 巡回、女性警官の派遣
- ※女性や子どもの意見を反映させ、安全環境を作る。

### 3. 物資の不足と管理

- 避難者(避難所+在宅)の性別年齢層別の把握を早い時期に行い、その情報を支援に活用
- 女性用品ニーズ把握は女性が女性に対し実施
- 女性も物資担当者になる
- 避難所から在宅避難者への物資配布リストと経路を決める
- 備蓄物資見直しを女性・子ども・高齢者・障害者の視点で

### 4. 固定的性別役割の強化

- 保育所の早期再開
- 出張保育
- 子ども、高齢者の預かり支援
- 学習ボランティアなどの活用
- 避難所の食事担当の臨時職員配置(または避難者の雇用機会とする)

### 5. 心身の健康

- 医療従事者の派遣・巡回をペアで
- 相談窓口  男女別の物干し場
- プライバシーを保てる空間
- 様々な交流イベント(特に男性向けイベント)
- 複数のリーダーシップを(負担の分散)
- 支援者への支援

### 6. 意思決定への参画

- 自主防災組織に女性が少なくとも3割以上参画する。障害者、外国人なども参画する。
- 地域に普段からある女性の課題と結びつけ、災害時の男女の困難を話し合っておく。
- 日常から女性が発言しやすい環境づくり

## 3) 男女共同参画・多様性の視点を取り入れた防災対策の重要性

なぜ、男女双方で対策を進めなければならないのか。その理由は次の図のとおりである。

### 災害と男女共同参画・多様性配慮の視点

#### 災害時要援護者

乳幼児、高齢者、心身障害者、妊産婦、傷病者、外国人居住者、旅行者等

#### 多様な人々

性別、性自認、年齢、国籍や母語の違い、家族構成、就労状況

被災者一人ひとり直面する問題は違う  
「同じ支援で皆平等」では、被害拡大

地域に暮らす多様な人々の「違い」に配慮した体制・支援が必要

- ・被災者/災害時要援護者の半分は女性
- ・当事者でないと、わからないことが数多くある(女性のことは女性でないと…)
- ・現状は、要援護者や子供のケアをしている人の多くが女性
- ・保育、医療、介護現場のプロの多くが女性
- ・女性は配慮されるべき側面と同時に、防災活動や災害時の対応に必要な、実生活に根差した知識や能力を持っている

女性が地域の役員や組織の責任者により多く就けるようにし、男女双方で対策を進めることが有効





パネルディスカッションの様子

## 第2部 パネルディスカッション

基調講演に続き、今回初めて各団体の代表者が一堂に会し、パネルディスカッションを開催しました。各パネリストの方が所属している団体の紹介や具体的にどのように防災対策を取り組んでいけば良いのかなど活発な意見交換が行われました。限られた時間の中でしたが、パネルディスカッションを通して、下田市における地域防災の今後の方向性が少し垣間見えたと思います。その詳細については「広報しもだ2月号」に掲載し、報告させていただきます。

## セミナー参加者のアンケート結果

今回開催されたセミナーへ参加していただきました皆様にアンケートを実施させていただきました。その一部をご紹介します。

- ◎市の防災担当は、男性職員が多くなってしまいますが、日本が東日本大震災を経験したことにより、自主防災組織において女性の視点が大切なことから、女性職員を配置するなどの見直しができることを期待します。課題はありますが、皆で考え行動することで、地域、下田でできることが明らかになってくるのではないかと感想を持ちました。(50代男性)
- ◎被災地の現状について大変参考になりました。避難所の運営についても大変参考になりました。ただし、女性参画についてはどうしたら女性が参加してくれるのかわからなく、苦勞しています。役員もなかなか受けてもらえないのが現状です。(60代男性)
- ◎被災地での避難生活は想像以上の困難(物資面、精神面、社会的面)があり、災害への意識を改めて、切実に考えさせられた。男性依存の気持ちが強い。災害に対しては、とにかく命を失わないことがモットー。ありがとうございました。(70代女性)
- ◎特に避難所の運営については女性の視点・力が必要だと思います。防災分野に限らず、各地域では性別による役割分担がされており、難しい問題だと思いました。大変参考になりました。ありがとうございました。(40代男性)
- ◎各地域の自主防担当者は、地域ごとの様々なご意見やご希望を集め、互いに交流しあいながら、防災訓練をさらに実情にあったものにしていくことが大切だと思いました。高齢者やハンディを抱えている方々が、災害時にそれぞれに合った生活が過ごせるよう、是非訓練をつんでいきましょう。(70代女性)

男女共同参画情報紙「ハーモニー」は下田市ホームページでも公開されております。

ホームページアドレス <http://www.city.shimoda.shizuoka.jp/>

【 ホーム > 市政ガイド > 男女共同参画 > 男女共同参画情報紙「ハーモニー」 】

※男女共同参画情報紙「ハーモニー」へのご意見、ご感想を募集しております。

下田市役所企画財政課企画調整係までご連絡ください。

TEL:0558-22-2212 FAX:0558-22-3910 E-mail:kikaku@city.shimoda.shizuoka.jp